

WA!



輪 つながり

和 平和

! 驚き

No.4



日本丸

昨年秋、宇品港に帆船「日本丸」が寄港しました。太平洋の白鳥と呼ばれる日本最大・世界最大級の練習帆船です。船体の流麗さもさることながら、乗務員のきびきびとした所作には規律の中にも優雅さがあり美しい。

登橋礼(とうしょうれい) (船の実習生がマストに登って「ごきげんよう!」と別れのあいさつをする伝統の儀式)では実直な心が伝わってきて感動しました。実習生は自然を相手に海と対話しながら一人前の船乗りとなっていくでしょう。

ところで正信偈の中に親鸞聖人は海という言葉の本願海、群生海、海一味、大宝海、大智海と五ヵ所使われています。如来様の本願の世界を喩えられたのと、我々の世界を喩えられたのと対照的な喩えをされています。特に、「如衆水入海一味」のところで、どのような河の水も、海に入れば一つの潮味になるようなものだ、この私達を漏らさずに受け入れてくださると、ご本願を讃えておられます。

逆境の中でご覧になられた海は、聖人に何を語りかけたのでしょうか。時には荒い、時には穏やかな海との出遇いは、聖人にさらに豊かで深い味わいを与えたように思われます。



甘茶ってなに？

四月八日はお釈迦さまの誕生日です。仏教の多くの宗派では「灌仏会（かんぶつえ）をお勤めします。「灌（かん）」という字は「水をそそぐ」という意味です。子ども会の行事で、花御堂（はなみどう）のなかの小さな誕生仏（たんじょうぶつ）お釈迦さまの生まれたときのすがたに、ひしゃくで液体をかけたことのある人も多いと思いますが、その液体が「甘茶」です。

これは、日本独特の風習だそうです。甘茶はアジサイ科ヤマアジサイの変種「小甘茶」から作ります。乾燥して煮出すと、うす茶色の甘いお茶になります。

年間消費量は約五〇トン、長野県、富山県、岩手県などで契約栽培されているそうです。ちなみに、少し前にはやったアマチャヅル茶というのがある



ましたが、アマチャヅルは甘茶にはしないのだそうです。最近では、ペットボトル入りのものもあります。

順教寺土曜学校

今年四月で満二年の活動を迎えられる賀茂東組順教寺の子ども会活動、去る二月十七日（土）に例会が開かれるということで取材に寄せていただきました。

始められたのは、若院さんが組の少年連盟推進委員に選ばれたことをきっかけに、これまで、毎月の例会、夏にはサマースクール、秋には「報恩講子ども大会」参加と活動をしてこられました。



さて、当日は雨で少し肌寒い日でありましたが、午前九時過ぎより二十数名の子ども達が集まり、お勤め（正信偈、こ法話、ゲームと「お茶」のお稽古と盛りだくさんの内容でした。「お茶」のお稽古は、ご門徒のお茶の先生がボランティアで指導をしてくださっているそうで、本格的なお稽古に、子ども会活動の新しい可能性に気づかせていただきました。

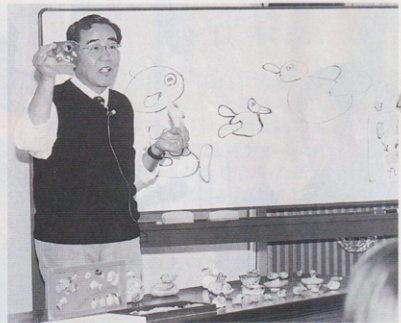


後期指導者学習会

平成十八年度後期指導者学習会が、三月十二日(月)に、本願寺広島別院にて開催されました。

当日は、安芸教区内だけでなく、山口教区からも、参加をされておりました。

開会式に続いて、午前の講義では「広島市子ども文化科学館」の福田宣行氏・下居修氏・加藤一孝氏の三名により「石ころアート」「ふしぎな紙アート」「よちよち人形」と工作タイトルを付けて、身近にあるものを工作し、形を変え、内容で、講義が行われました。



「よちよち人形」の講義では、材料に牛乳パック一個・ストロー一本・タコ糸一本・クリップ一本・見本の絵を使い、よちよちと前に進む人形の作り方を教わりました。作業が始まると、参加者全員が時間を忘れて、人形作りに集中していました。そして、苦勞の末に「よちよち人形」が完成すると、テーブルごとに人形の動きを確認していました。

「石ころアート」の講義では、自らの想像力を働かせ、どこにでも転がっているような石と石を専用の接着剤でくっつけて、魚・鳥・亀等の形を作りました。各自が思いつくままに、石と石をくっつけていくと、様々な個性的な「石ころアート」ができあがりました。

「ふしぎな紙アート」の講義では、時間の関係で、製作を体験することは出来ませんでした。色々な完成品を紹介していただき、そのふしぎな作品に、一同ただ驚かされるばかりでした。

また、今回紹介された工作は、どれも、組み立てた後で色を塗って完成らしいのですが、今回は時間の関係で、色塗り作業は中止となってしまいました。しかし、午前の講義中、前方の机の上には、きれいに色が塗られた「よちよち人形」「石ころアート」等、完成品が展示してあり、人形作りの作業の合間をぬって、作品を見学させていただきました。

午後の講義は、松月博宣氏(本願寺派少年連盟副理事長)によって、親鸞聖人七五〇回大遠忌宗門長期振興計画の重点項目として全寺院「子どものつどい」キッズサンガークについての講義が行われました。



日校活動を通して、子どもの幸せについて語られた後、布教の対象が現状では、大人だけになっていないか? 昔からいるご門徒とのつながりの上にあぐらをかいていないか? 次世代においてその中心となる宗教的情操豊かな青少年の育成をおろそかにしていないか? と問題点を投げ掛けられました。

つまり、現在の寺院は、過去の遺産を食い潰している状態なのではないか。もつと次世代を担う子ども達とお寺とのご縁を結ぶ必要があるのではと訴えられました。

これからの少年教化について、私たちは何が出来るのか、また何をすべきなのかを、考えさせられる講義となりました。今回この後期指導者学習会に参加させていただいて、ここで学んだ事を参考にして、これからの日校活動に有効に活用していきたいと思っております。





プラカードを持って入場



報恩講子ども大会



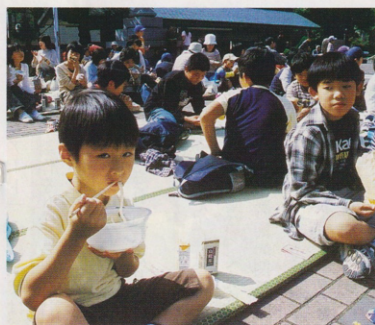
次は何しようかな!?



ストロー奏者 神谷 徹さん このほりが、わかる?



ストローの音色に耳をかたむけました



つるり、うどん おいしいよ!



「わいわいランド」の後は、ストロー奏者神谷徹さんによる「たのしいストローミュージック」のアトラクション。ストローをつなげ長くしたものや、面白い形に組み立てたストローから醸し出さ

時間を過ごした。

「わいわいランド」の後は、恒例の「わいわいランド」でゲームや屋台での昼食と「あの賞品が欲しい!」「おいしい!」と友だちと手を取り合い楽しい時間を過ごした。

「遠近各地の子ども達が、報恩講をご縁に別院に集まり、楽しい一日を過ごしてもらえたらうれしい。そして、このお寺での一日を大人になっても覚えていて欲しい」と語る山村崇実行委員長(深川組善徳寺)。秋のやわらかい日差しのもと、「来年もまた来てね!」と早くから準備にあたった大会実行委員らは、会場をあとにする子ども達を見送った。

「わいわいとにぎやかに 報恩講をご縁に 別院に大集合!」

報恩講子ども大会開催される、平成十八年十月十四日(土)に「第三十九回報恩講子ども大会」が開催された。天候にも恵まれ、四三二名の参加者(引率を含む)があり、別院が子ども達の歓声に包まれた。



うまくとれたかな! 風船つり

れる音に、子ども達は不思議そうに見入った。さらに知っている曲が演奏されると会場が沸いた。「楽しかった!」「また来てみたい」との声が至るところで聞こえた。